



現状

■ 「参画と協働」の確実な拡がり

県民の主体的な地域づくり活動は、地域の資源を生かしながら創意工夫を凝らし、柔軟かつ多彩に展開されており、また、今年8月の台風9号兵庫県西・北部豪雨災害時には積極的なボランティア活動がみられたほか、県内の企業等による社会貢献活動も拡がりをみせており、「参画と協働」の考え方・取り組みは、多様な主体、様々な世代に確実に浸透しつつあるといえます。

一方、県行政への参画と協働については、県民意見提出手続(パブリック・コメント手続)を積極的に実施したいと考える庁内の執行機関は増加傾向にあるなど、職員に参画と協働の手法のより積極的な活用が定着しつつあります。また、とりわけ子育て、教育、福祉などの分野では、各事業が参画と協働の手法を鋭意工夫すること、事業間でうまく手法を活用し合うこと等で地域に確実に定着し、成果をあげつつあります。

課題

■ 多様な主体との連携の強化

(企業の社会貢献活動との連携機会の拡大)

地域での主体的な活動においても、また、県の施策・事業においても、自治会、婦人会をはじめとする地域団体、ボランティアグループ、NPO、行政等が企業と連携して取り組む機会が増えています。企業の社会貢献活動の取り組みの拡がりとともに、今後も多様な連携が進むことが期待されます。

(市町との連携の強化)

県内各市町では、参画と協働に関する条例等の施行や各種のしくみの導入が着実に進んでいます(21ページ参照)。市町からは、県と市町それぞれの事業の連携を図ることで地域の活動が活性化しているなど、県の参画と協働の取り組みについて一定の評価を得ています。

今後の方向性

■ 県に期待される役割 ～コーディネータ力の強化

地域づくり活動に取り組むなかで、大学等からは、これまで関わりのなかった企業等と協働したいが知り合う機会がなく、どこからアプローチすればよいのかわからないという声が多くありました。また、企業等へヒアリングをする中で、県がコーディネータ役を果たせば、行政の持つ信用力に基づき、企業等と団体・NPO等との協働がスムーズに進み、地域づくり活動が充実することがわかりました。

今後、県としてはコーディネータ力の向上、交流やマッチングの機会の創出に努め、市町をはじめ各主体の連携による活動のさらなる充実を支援していきます。